

官報

號外 昭和十三年三月十八日

○第七十三回貴族院議事速記第二十五號

帝國議會

昭和十三年三月十七日(木曜日)午前十時四分開議

議事日程 第二十五號

昭和十三年三月十七日

午前十時開議

- 第一 東洋拓殖株式會社法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第二 工作機械製造事業法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第三 職業紹介法改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第四 國家總動員法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第五 昭和十二年法律第八十四號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第六 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第七 昭和十三年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

重要礦物増産法案

日本産金振興株式會社法案

樺太地方鐵道補助法中改正法律案

同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル國定教科書中ニ酒害豫防ニ關スル教材挿入ノ請願外十三件ノ請願ハ各、意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案可決報告書

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案可決報告書

昭和十三年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案可決報告書

請願文書表(第九回報告)

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

東洋拓殖株式會社法中改正法律案

工作機械製造事業法案

職業紹介法改正法律案

國家總動員法案

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、昨十六日、三宅秀君ガ薨去セラレマシタ、寔ニ哀悼ノ至リニ堪ヘマセヌ、同君ハ明治二十四年四月十五日本院議員ニ任ゼラレマシテ、第二回會議ヨリ議席

ニ列シ、爾來實ニ四十有餘年ノ久シキニ互リ、常ニ精勵恪勤專ラ憲政發達ノ爲ニ盡瘁セラレタノデアリマス、而シテ去ル第七十回會議ニ於キマシテ、特ニ院議ヲ以テ其ノ功勞ヲ表彰セラレマシタコトハ諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、就キマシテハ同君ニ對シ、議長ノ手許ニ於キマシテ起草致シマシタ弔辭ヲ御贈リ致シタイト存ジマス、茲ニ其ノ案ヲ朗讀シテ御諮リヲ致シマス

貴族院ハ多年力ヲ憲政ノ濟美ニ效シ特ニ院議ヲ以テ其ノ功勞ヲ顯彰セラレタル議員中央衛生會委員學校衛生調查會委員保健衛生調查會委員東京帝國大學名譽教授帝國學士院會員錦雞間祇候從三位勳二等三宅秀君ノ長逝ヲ追悼シ恭シク弔辭ヲ呈ス

以上ノ議長ノ發議竝ニ只今朗讀致シマシタ弔辭案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

(議員起立)

○議長(伯爵松平賴壽君) 全會一致ト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第一、東洋拓殖株式會社法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、大谷拓務大臣

(左ノ送付文及法律案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ)

東洋拓殖株式會社法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月十六日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

東洋拓殖株式會社法中改正法律案

東洋拓殖株式會社法中左ノ通改正ス

第一條中「朝鮮及外國」ヲ「内地以外ノ地域」ニ改ム

第七條中「總裁一人」ヲ「總裁副總裁各一人」ニ改ム

第八條第二項中「理事中一人」ヲ「副總裁」ニ改メ同條第三項ヲ左ノ如ク改ム

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

第九條第一項中「總裁」ヲ「總裁及副總裁」ニ改ム

第十條中「總裁及理事」ヲ「總裁、副總裁及東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ分掌スル理事」ニ改ム

第十一條第二項中「外國」ヲ「朝鮮以外ノ地域」ニ改ム

第二十三條第一項中「十倍」ヲ「十五倍」ニ、同條第二項中「第九十九條」ヲ「第九十九條及第二百條」ニ改ム

第四十條ノ二ヲ削ル

第四十一條中「總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル理事」ヲ「總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁」ニ、「理事ノ分擔業務」ニ係ルトキハ理事」ヲ「副總裁又ハ理事」ニ、「第四十條又ハ第四十條ノ二」ヲ「又ハ第四十條」ニ改ム

第四十二條中「總裁」ノ下ニ、「副總裁」ヲ加フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣大谷尊由君演壇ニ登ル)

○國務大臣(大谷尊由君) 只今議題ニナリマシタ東洋拓殖株式會社法中改正法律案ニ付テ御說明申上ゲマス、東洋拓殖株式會社ノ營業ハ、近年次第ニ順調ナル發達ヲ遂ゲテ參リマシテ、其ノ投資額、收益額モ逐年増加シ、營業事業ノ種類内容モ複雜多岐トナリ、營業地域モ漸次擴張セラレ、ニ至リマシタノデ、茲ニ副總裁一人ヲ置キ、總裁

石橋書記官朗讀) 昨十六日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提

昭和十三年三月十六日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

工作機械製造事業法案

工作機械製造事業法

第一條 本法ハ國防ノ整備及産業ノ發達ヲ期スル爲本邦ニ於ケル工作機械製造事業ノ確立ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ工作機械製造事業ト稱スルハ命令ヲ以テ定ムル工作機械ノ製造ヲ爲ス事業ヲ謂フ

第三條 工作機械製造事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ其ノ設備ガ命令ノ定ムル規模ニ達セザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本法ニ定ムルモノノ外前項ノ許可ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ株主ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半數以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半數以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 第三條ノ許可ヲ受ケタル會社(工作機械製造會社)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

工作機械製造會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第三條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條 工作機械製造會社其ノ設備ヲ増設シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

第七條 工作機械製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營業ム工作機械製造事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

前項ノ工作機械製造會社其ノ設備完成前其ノ一部ヲ以テ工作機械製造事業ヲ營業ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル工作機械製造會社ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第七條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ第七條ノ規定ニ依ル所得稅及營業收益稅免

除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第十條 工作機械製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シ其ノ設備ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ償却ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ償却額ガ其ノ設備完成ノ日ノ屬スル營業年度ノ翌營業年度ヨリ起算シ一年ヲ營業年度トスルモノニ在リテハ第五營業年度末、六月ヲ營業年度トスルモノニ在リテハ第十營業年度末ニ於テ當該設備ノ價額ノ六割ニ達セザルトキハ政府ハ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ

前項ニ規定スル最終營業年度ノ翌營業年度以降每營業年度ニ於テ當該設備ヲ以テ營業ム工作機械製造事業ヨリ生ズル利益金額ガ勸令ヲ以テ定ムル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

第十一條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ規定ニ依ル補給金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十二條 工作機械製造會社其ノ事業ノ爲必要ナル器具、機械又ハ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十三條 工作機械製造會社ハ事業擴張

ヲ輔佐シテ社務ノ統轄ニ當ラシメ、以テ社務ノ圓滑遺漏ナキ運行ヲ圖リマスト共ニ、參與理事ノ制度ヲ設ケマシテ、各方面ニ於ケル達識者ノ參畫ヲ求メ、以テ同社ノ使命達成上、遺憾ナカラシメトスル次第デゴザイマス、次ニ、東洋拓殖債券ノ發行限度、拂込資本金ノ十倍、即チ三億五千萬圓デアリマスル處、現ニ二億四千餘萬圓ノ債券ヲ發行シテ居リ、餘力ハ約一億圓ニ過ギナクナツクデアリマス、然ルニ同社ノ業務ハ前述ノ通り、最近飛躍的發展ヲ示シ、更ニ今後朝鮮、滿洲竝ニ北支方面ニ於テ、同社ノ企業經營ニ俟ツベキモノ極メテ多ク、從テ之ガ資金ノ調達ハ最モ急務トスル所デアリマスノデ、之ニ對處スル爲債券ノ發行限度ヲ十五倍ニ擴張セムトスルデアリマス、尙此ノ機會ニ於キマシテ、營業地域ニ關スル規定其ノ他ノ規定ニ付テ、若干ノ修正削除ヲモ致サムトスル次第デアリマス、何卒宜シク御審議ノ上、速カニ御協贊アラムコトヲ希望致シマス

議長(伯爵松平賴壽君) 御質疑ガナケレ

ハ本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(丸龜書記官朗讀)

東洋拓殖株式會社法中改正法律案特別委員(三月十七日議長選定)

侯爵淺野 長之君 子爵片桐 貞央君

子爵水無瀬忠政君 山川 端夫君

男爵肝付 兼英君 小坂 順造君

各務 鎌吉君 林 平四郎君

金子元三郎君

議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二、工作機械製造事業法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、吉野商工大臣

工作機械製造事業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第十四條 工作機械製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メ商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 工作機械製造會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

工作機械製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條 第十條第一項ノ規定ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケタル工作機械製造會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ届出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

ハ同項ニ規定スル最終營業年度迄每營業年度ニ於ケル利益金ノ處分ニ付政府ノ認可ヲ受クベシ

第十條第一項ノ規定ニ依リ補給金ノ交付ヲ受ケタル工作機械製造會社ハ同條第二項ノ規定ニ依リ補給金ノ償還ヲ終了スル營業年度迄每營業年度ニ於ケル利益金ノ處分ニ付亦前項ニ同ジ

第十八條 政府ハ工作機械製造會社ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ工作機械製造會社ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ工作機械製造會社ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十九條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ工作機械製造會社ニ對シ工作機械ノ販賣價格若ハ販賣條件ノ變更ヲ命ジ又ハ工作機械ノ需要供給ヲ調節スル爲メ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府公益上必要アリト認ムルトキハ工作機械製造會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ工作機械製造會社ニ對シ特殊工作機械ノ製造、工作機械ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 第十九條第二項又ハ前條ノ

規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル工作機械ノ試作ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第二十三條 工作機械ノ輸入ガ工作機械製造事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ工作機械ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第二十四條 工作機械ノ輸入ニ因リ其ノ市價ノ低落ヲ來シ工作機械製造事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ關稅調査委員會ノ議ヲ經テ期間ヲ定メ工作機械ニ對シ關稅率法別表輸入稅率ニ定ムル輸入稅ノ外其ノ物品ノ價格ノ五割ニ相當スル金額以下ノ輸入稅ヲ課スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ工作機械製造會社ヲ除クノ外工作機械又ハ工作機械部分品ノ製造ヲ爲ス者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ業務又ハ設備ノ狀況ニ關シ必要ナル事項ヲ届出デシムルコトヲ得

第二十六條 政府第三條ノ許可、第六條ノ許可(命令ノ定ムル規模以上ノ設備ニ關スルモノニ限ル)、第十九條ノ命令、第二十一條ノ補償金額ノ決定又ハ第二十三條ノ制限ヲ爲サントスルトキハ工作機械製造事業委員會ノ議ヲ經ベシ

工作機械製造事業委員會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 工作機械製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第三條ノ許可ヲ取消シ、取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監督役ノ解任ヲ爲シ又ハ之ニ對シ第十條ノ規定ニ依リ補給金ノ全部若ハ一部ヲ交付セズ若ハ交付シタル補給金ノ全部若ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ工作機械製造事業ヲ營ミタル者

二 第二十三條ノ規定ニ依リ制限ニ違反シテ工作機械ノ輸入ヲ爲シタル者

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條ノ規定ニ違反シテ設備ヲ増設シ又ハ變更シタル者

二 第十五條第一項ノ規定ニ違反シテ事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタル者

三 第十六條第一項ノ規定ニ違反シテ事業計畫ノ届出ヲ爲サズ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

四 第十六條第二項ノ規定ニ依リ變更命令ニ違反シテ事業計畫ヲ實施シタル者

五 第十七條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ利益金ノ處分ヲ爲シタル者

六 第十九條ノ規定ニ依リ命令ニ違反

シタル者

七 第二十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十條 第十八條第二項ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十八條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ガ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第三十二條 營業者ハ其ノ代理人、戶主家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條 第二十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ工作機械製造事業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ者ニシテ本法施行ノ際ニ第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ設備ノ増設又ハ變更ノ工事中ニ在ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ工作機械製造事業ヲ營ム爲メ本法施行ノ際現ニ其ノ設備ノ建設工事中ニ在ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前二項ノ規定ニ該當スル者ノ當該設備ニ關シテハ第七條、第八條及第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

國務大臣(吉野信次君) 只今議題トナリマシタ工作機械製造事業法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、申ス迄モナク工作機械製造事業ハ、國防上緊要缺クベカラザル事業デアリマスルト共ニ、一般機械工業ノ基礎タル工業トシテ、産業上モ極メテ重要ナルモノデアリマシテ、之ガ發達ノ如何ハ我が國防ノ上ニモ亦産業ノ上ニモ重大ナル意義ヲ有スルモノデアリマス、然ルニ我が國ニ於キマスル工作機械製造事業ハ、近頃漸ク發展過程ニ入ッテヤウナ實情デアリマシテ、其ノ製造能力ニ於キマシテ、將又其ノ製造技術ニ於キマシテモ遺憾ノ點ガ尠クナイノデアリマス、即チマダ我が國ニ於キマシテ製造困難ナル工作機械ガ相當アリマスルノミナラス、一般國産ノ工作機械ノ性能ハ、外國品ニ比ベマシテ可ナリ遜色ガアリマスコトハ、否ムコトガ出來ナイ事實デアリマシテ、我が國ハ之ガ爲ニ毎年多額ノ工作機械ヲ海外カラノ輸入ニ仰イデ居ルノデアリマス、ソレ故ニ斯業ノ振興ノ必要ハ從來カラ痛感セラレテ居ッテデアリマスルガ、特ニ現下ノ時局ニ際シマシテ、斯業ノ確立ハ刻下最大ノ急務ト信ズルノデアリマス、而シテ工作機械製造事業確立ノ方策ト致シマシテハ、斯業ノ特質ニ即應致シマシテ、適切ナル各種ノ獎勵方策ヲ講ジ、以テ生産力ノ擴充ヲ圖リマスルト共ニ、他面適當ナル指導監督ニ依リマシテ、斯業ノ經營ヲ合理ノ基礎ノ上ニ置キ、以テ其ノ製造技術ノ向上ニ資シマスルコトガ適當デアラウト考ヘルノデアリマス、此ノ法案ハ此ノ目的ヲ達スルコトヲ期スルモノデアリマス、何卒御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ工作機械製造事業法案ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、其ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(丸筆書記官朗讀)

工作機械製造事業法案特別委員(三月十七日議長選定)

公爵山縣 有道君 侯爵中御門經恭君

伯爵溝口 直亮君 子爵谷 儀一君

子爵井上 勝純君 男爵淺田 良逸君

男爵東郷 安君 男爵井上 清純君

倉知 鐵吉君 次田大三郎君

大塚 惟精君 江口 定條君

藤原銀次郎君 久恒 貞雄君

平尾喜三郎君 長野 忠次君

水野其次郎君 子爵大河内正敏君

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第三、職業紹介法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、木戸厚生大臣

職業紹介法改正法律案 衆議院議長 伯爵松平賴壽殿 昭和三十二年三月十六日 衆議院議長 小山 松壽

府縣ノ負擔スル費用ノ一部ヲ市町村ヲシテ負擔セシムルコトヲ得

第八條 勞務供給事業ヲ行ハントスル者又ハ勞務者ヲ雇傭スル爲メ勞務者ノ募集ヲ行ハントスル者ニシテ命令ノ定ムルモノハ地方長官(東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス)ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ勞務供給事業及勞務者ノ募集ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介事業ヲ行ヒタル者

二 第八條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ有料又ハ營利ヲ目的トスル勞務供給事業ヲ行ヒタル者

第十條 第八條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ勞務者ノ募集ヲ行ヒタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

第十一條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條 本法ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第十四條 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第十五條 第二條ノ規定ハ主務大臣ノ指定スル職業ノ職業紹介事業ニハ之ヲ適用セズ

前項ノ職業紹介事業ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 本法ハ船員職業紹介事業ニハ之ヲ適用セズ

第十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 從前ノ規定ニ依リ設置シタル職業紹介所ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ職業紹介委員會ニ關スル規定ヲ除キ仍從前ノ例ニ依ル

第十九條 地方長官ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ職業紹介所ノ廢止ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 本法施行ノ際現ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケ職業紹介所ヲ設置スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内無料ノ職業紹介事業ヲ行フコトヲ得

第二十一條 本法施行ノ際現ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケ有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ職業紹介事業ノ施設ヲ相續ニ因リ承繼シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官(東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス)ノ許可ヲ受ケ其ノ事業ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相續開始ノ日ヨリ一月以内ニ許可ヲ申請スベシ

前項ノ者ハ前項ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分アル迄其ノ事業ヲ行フコトヲ得

第二十二條 本法施行ノ際現ニ第八條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ勞務供給事業又ハ勞務者ノ募集ヲ行フ者ハ本法施行後二月以内ニ地方長官(東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス)ニ許可ヲ申請スベシ

前項ノ者ハ前項ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分アル迄其ノ事業ヲ行フコトヲ得

規定ニ依リ許可ヲ受クベキ勞務供給事業又ハ勞務者ノ募集ヲ行フ者ハ本法施行後二月以内ニ地方長官(東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス)ニ許可ヲ申請スベシ

前項ノ者ハ前項ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分アル迄其ノ事業ヲ行フコトヲ得

○國務大臣(侯爵木戶幸一君) 只今議題トナリマシタ職業紹介法改正法律案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御說明致シマス、我が國現下ノ情勢ニ觀マシマス、國家ノ遂行スル諸政策ニ順應セシムル爲メ、勞務ノ適正ナル配置ヲ圖ルコトガ、極メテ緊要デアルト考ヘルノデアリマス、今次事變下ニ於ケル當面ノ問題ト致シマシテハ、一方ニ於テ軍需勞務ノ充足ヲ敏速的確ナラシムル共ニ、他方ニ於テハ事變ニ伴フ生ズル職業轉換等ヲ圓滑ナラシメ、克ク長期對戰ニ耐ヘ得ルノ措置ガ必要デアリマスノミナラズ、歸還又ハ傷痍軍人等ノ職業斡旋ニ付テモ、其ノ萬全ヲ期スルノ用意ガナケレバナリマセヌ、又今後ノ問題ト致シマシテハ、生産力ノ擴充計畫遂行ノ爲ニモ、所要ノ勞働力ヲ適當ニ供給スルノ要ガアリ、更ニ事變後ニ於テモ勞務ノ調整ニ付テ十分ノ配慮ガ必要デアルト考ヘラレルノデアリマス、而シテ之ガ爲ニハ職業紹介機關ヲシテ其ノ機能ヲ十分發揮セシメマシテ、國家ノ行ハムトスル諸政策ニ順應シツ、一方ニ於テハ國民各人ノ資質ト事情等ヲ稽ヘ、成ルベク其ノ適職ニ就カシムル共ニ、之ヲ需ムル側ニ對シテハ成ルベク適材ヲ圓滑ニ供給シ、以テ之ガ配置ノ適正ト需給ノ圓滑トヲ圖ルヤウ、之ヲ運用スルコトガ最モ肝要デアルト信ズルノデアリマス、併シナガラ職業紹介機關ヲシテ、斯クノ如キ機能ヲ十分ニ發揮セシメマス爲ニハ、其ノ紹介網ヲ全國的ニ

分布シ、且其ノ内容ヲ充實スルト共ニ、之ガ連絡統制ノ組織ヲ強化シ、眞ニ全國ノ機關ヲ打ッテ一丸トシ、統一アル活動ヲ爲シ得ルヤウ、之ヲ整備擴充スルコトガ必要デアリマス、然ルニ現在ノ公益職業紹介制度ハ、大正十年ニ之ガ制定ヲ見タノデアリマシテ、其ノ當時ニ於キマシテハ、職業紹介事業ハ主トシテ失業者ニ對スル救済ト云フ程立場ニ於テ、是等ノ職業斡旋ヲ爲スト云フ程度デアッタノデアリマス、其ノ後公益職業紹介事業モ段々ト發展シテ參リマシテ、今日ニ於キマシテハ唯單ナル救済的機關タルニ止ラズ、國防、産業、其ノ他各方面ノ勞務需要ニ對シテ、其ノ勞務ノ斡旋ヲスルヤウニ相成リマシテ、所謂勞務ノ需給調整機關タルノ地步ヲ築キツ、アルノデアリマス

ルガ、現在ノ制度ニ於キマシテハ、其ノ經營ヲ市町村等ノ地方公共團體ニ委ネテ居ル關係上、其ノ普及ノ點ニ於テ、其ノ活動力ノ點ニ於テ、將又其ノ連絡統制ノ點ニ於テ、種々缺陷不便ガアリ、本事業ノ機能ヲ十分發揮シ得ナイ實情ニアリマシテ、斯クノ如キ制度ヲ以テ致シマシテハ、到底現下ノ要求ニ即應スルコトガ出來ナイト考ヘルノデアリマス、政府ニ於キマシテハ以上申上ゲマシタヤウナ時勢ノ要求ト、職業紹介制度ノ缺陷トニ鑑ミマシテ、現行ノ職業紹介制度ヲ改メ、職業紹介事業ヲ政府自ラ掌管シ、之ガ機關ヲ整備擴充シ、以テ現下並ニ將來ノ時局ニ對處セムト致シマシテ、茲ニ本改正法律案ヲ提出スルニ至ツタ次第デアリマス、本改正法律案ニ於キマシテハ、職業紹介事業ノ政府管掌ニ關スル事項ヲ規定致シマシタ外、民間ニ於ケル職業紹介事業並ニ之ガ類似事業等ニ付テ、若干ノ規正ヲ加ヘル規定ヲモ設ケタノデアリマス、尙本改正法律案實施ニ要スル經費ニ關シマシテハ、昭和十三年度追加豫算案ニ計上シ、御協賛ヲ願フ豫定トナツテ居リマス、何卒御

審議ノ上速方ニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ、職業紹介法改正法律案ハ、社會事業法案外二件ト關聯スル所ガゴザイマスルガ故ニ、同一委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第四、國家總動員法案 政府提出、衆議院送付、第一讀會、近衛內閣總理大臣

國家總動員法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十三年三月十六日
衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

國家總動員法案

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人の及物の資源ヲ統制運用スルヲ謂フ
第二條 本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資
- 二 國家總動員上必要ナル被服、食糧、飲料及飼料
- 三 國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衛生用物資及家畜衛生用物資
- 四 國家總動員上必要ナル船舶、航空

機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資

五 國家總動員上必要ナル通信用物資

六 國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明用物資

七 國家總動員上必要ナル燃料及電力

八 前各號ニ掲グルモノノ生産、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他ノ物資

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條 本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 總動員物資ノ生産、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務

二 國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務

三 國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務

四 國家總動員上必要ナル衛生、家畜衛生又ハ救護ニ關スル業務

五 國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務

六 國家總動員上必要ナル試験研究ニ關スル業務

七 國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務

八 國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ゲズ

第五條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國又ハ地方公共團體ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇又ハ賃金其ノ他ノ勞働條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞働爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ命ジ、輸出税若ハ輸入税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ増課若ハ減免スルコトヲ得

第十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メ社債ノ募集又ハ資本ノ増加ニ付商法第二百條又ハ第二百十條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

第十四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ收用シタルモノノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ十年内ニ拂下グルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員

上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制協定ノ加盟者若ハ其ノ統制協定ニ加盟セザル事業主ニ對シ其ノ統制協定ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種又ハ異種ノ事業ノ事業主ニ對シ當該事業ノ統制ヲ目的トスル組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ組合ハ法人トス
第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ組合成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員ヲラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ組合ニ對シ其ノ組合員ノ營業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ組合員ニ對シ組合ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃貨料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依

リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ併セテ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇備若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ検査スルコトヲ得

第二十二條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラレベキ者ノ雇備主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第二十四條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヲシテ戰時ニ際シ實施セシムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ業トスル者又ハ試験研究機關ノ管理者ニ對シ試験研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十八條 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル拂下ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保證又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ガ爲ニ必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サン

トシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

二 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

五 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用者若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反

反シ保有ヲ爲サザル者

五 第二十六條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十五條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試驗研究ヲ爲サザル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲サザル者

二 第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條 第二十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及掲載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同じ

第四十條 第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

署名シタル者亦前項ニ同じ

第四十條 第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條 總動員業務ニ從事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ設立シタル組合ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニ付亦同ジ

本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

第五十條 本法施行ニ關スル重要事項(軍機ニ關スルモノヲ除ク)ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲メ國家總動員審議會ヲ置ク

國家總動員審議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

付テハ仍舊法ニ依ル

〔國務大臣公爵近衛文麿君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(公爵近衛文麿君) 只今議題トナリマシタ、國家總動員法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、近代戰ノ特色ハ所謂國力戰ニアルノデアリマシテ、戰爭ノ目的ヲ達成スル爲ニハ、陸海軍ノ奮闘ト相俟ツテ、國家總動員ノ態勢ヲ完備シナケレバ、ナラナイノデアリマス、即チ戰時又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シテハ、物心兩面ニ互リ全資源ヲ動員シテ、以テ單リ軍需ノ充足ヲ完ウスルニ止マラズ、國民生活ヲ確保シ、且戰爭遂行上必要アル各般ノ國家活動ヲ圓滑ナラシメ、以テ國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮スルコトガ、戰勝ノ目的ヲ達成スル爲ニハ、必須ノ要件デアリマス、本案ハ此ノ事實ニ鑑ミマシテ、政府トシテ戰時又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シ、所要ノ措置ヲ敏速ニ講ジ得ベキ根據ヲ規定シタルモノデアリマス、斯クノ如キ戰時發動ノ必要トスル政府ノ權限ノ大綱ハ、國家總動員ノ準備事務ノ進捗ニ伴ヒ、大體豫定シ得ル譯デアリマス、ガ故ニ、豫メ議會ノ御協賛ヲ經テ之ヲ定メテ置キマシテ、其ノ範圍内ニ於テ、政府ガ戰爭ノ實際ノ情況ニ即應シ、臨機ノ處置ヲ講ジ得ルコトト致シマス、尙斯クシテガ適當ト考ヘルノデアリマス、尙斯クシテ國家總動員ニ關スル國家ノ權力發動ノ態樣ヲ、豫メ國民一般ニ了解セシメテ置クコトハ、國家總動員準備ノ進捗ニ資スル所以タルノミナラズ、有事ニ際シ國民ノ自發的協力ヲ容易ナラシメ、法令執行ノ圓滑ヲ期スル上ニ必要デアルト考ヘルノデアリマス、殊ニ我が國ハ國家總動員ノ經驗ニ乏シク、又其ノ資源ノ情況等ヲ考ヘマシテモ、特ニ本法制定ノ必要ヲ感スル次第デアリマス、國家總動員ニ關スル現行ノ法制ト致シマシテハ、大正七年ニ制定セラレマシタル軍需工業動員法ガ存スルノデアリマスガ、同法

付テハ仍舊法ニ依ル

〔國務大臣公爵近衛文麿君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(公爵近衛文麿君) 只今議題トナリマシタ、國家總動員法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、近代戰ノ特色ハ所謂國力戰ニアルノデアリマシテ、戰爭ノ目的ヲ達成スル爲ニハ、陸海軍ノ奮闘ト相俟ツテ、國家總動員ノ態勢ヲ完備シナケレバ、ナラナイノデアリマス、即チ戰時又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シテハ、物心兩面ニ互リ全資源ヲ動員シテ、以テ單リ軍需ノ充足ヲ完ウスルニ止マラズ、國民生活ヲ確保シ、且戰爭遂行上必要アル各般ノ國家活動ヲ圓滑ナラシメ、以テ國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮スルコトガ、戰勝ノ目的ヲ達成スル爲ニハ、必須ノ要件デアリマス、本案ハ此ノ事實ニ鑑ミマシテ、政府トシテ戰時又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シ、所要ノ措置ヲ敏速ニ講ジ得ベキ根據ヲ規定シタルモノデアリマス、斯クノ如キ戰時發動ノ必要トスル政府ノ權限ノ大綱ハ、國家總動員ノ準備事務ノ進捗ニ伴ヒ、大體豫定シ得ル譯デアリマス、ガ故ニ、豫メ議會ノ御協賛ヲ經テ之ヲ定メテ置キマシテ、其ノ範圍内ニ於テ、政府ガ戰爭ノ實際ノ情況ニ即應シ、臨機ノ處置ヲ講ジ得ルコトト致シマス、尙斯クシテガ適當ト考ヘルノデアリマス、尙斯クシテ國家總動員ニ關スル國家ノ權力發動ノ態樣ヲ、豫メ國民一般ニ了解セシメテ置クコトハ、國家總動員準備ノ進捗ニ資スル所以タルノミナラズ、有事ニ際シ國民ノ自發的協力ヲ容易ナラシメ、法令執行ノ圓滑ヲ期スル上ニ必要デアルト考ヘルノデアリマス、殊ニ我が國ハ國家總動員ノ經驗ニ乏シク、又其ノ資源ノ情況等ヲ考ヘマシテモ、特ニ本法制定ノ必要ヲ感スル次第デアリマス、國家總動員ニ關スル現行ノ法制ト致シマシテハ、大正七年ニ制定セラレマシタル軍需工業動員法ガ存スルノデアリマスガ、同法

付テハ仍舊法ニ依ル

〔國務大臣公爵近衛文麿君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(公爵近衛文麿君) 只今議題トナリマシタ、國家總動員法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、近代戰ノ特色ハ所謂國力戰ニアルノデアリマシテ、戰爭ノ目的ヲ達成スル爲ニハ、陸海軍ノ奮闘ト相俟ツテ、國家總動員ノ態勢ヲ完備シナケレバ、ナラナイノデアリマス、即チ戰時又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シテハ、物心兩面ニ互リ全資源ヲ動員シテ、以テ單リ軍需ノ充足ヲ完ウスルニ止マラズ、國民生活ヲ確保シ、且戰爭遂行上必要アル各般ノ國家活動ヲ圓滑ナラシメ、以テ國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮スルコトガ、戰勝ノ目的ヲ達成スル爲ニハ、必須ノ要件デアリマス、本案ハ此ノ事實ニ鑑ミマシテ、政府トシテ戰時又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シ、所要ノ措置ヲ敏速ニ講ジ得ベキ根據ヲ規定シタルモノデアリマス、斯クノ如キ戰時發動ノ必要トスル政府ノ權限ノ大綱ハ、國家總動員ノ準備事務ノ進捗ニ伴ヒ、大體豫定シ得ル譯デアリマス、ガ故ニ、豫メ議會ノ御協賛ヲ經テ之ヲ定メテ置キマシテ、其ノ範圍内ニ於テ、政府ガ戰爭ノ實際ノ情況ニ即應シ、臨機ノ處置ヲ講ジ得ルコトト致シマス、尙斯クシテガ適當ト考ヘルノデアリマス、尙斯クシテ國家總動員ニ關スル國家ノ權力發動ノ態樣ヲ、豫メ國民一般ニ了解セシメテ置クコトハ、國家總動員準備ノ進捗ニ資スル所以タルノミナラズ、有事ニ際シ國民ノ自發的協力ヲ容易ナラシメ、法令執行ノ圓滑ヲ期スル上ニ必要デアルト考ヘルノデアリマス、殊ニ我が國ハ國家總動員ノ經驗ニ乏シク、又其ノ資源ノ情況等ヲ考ヘマシテモ、特ニ本法制定ノ必要ヲ感スル次第デアリマス、國家總動員ニ關スル現行ノ法制ト致シマシテハ、大正七年ニ制定セラレマシタル軍需工業動員法ガ存スルノデアリマスガ、同法

ハ軍需充足ノ爲ニ國內工業力ヲ動員スルコ
トヲ主眼トスルモノデアリマシテ、從テ其
ノ法律運用ノ目的ニ於キマシテ、將又規定
事項ノ範圍ニ於キマシテ、前述ノ如キ國家總
動員ノ目的ヲ達スル爲ニハ固ヨリ不十分ナ
ノデアリマス、尙今回ノ支那事變ニ於キマ
シテハ、差當リ曩ニ御協賛ヲ得マシタル臨
時諸法律ニ依リマシテ、軍需工業動員法ノ
足ラザル所ヲ補ヒ、應急ノ措置ヲ講ジツ、
アルノデアリマスガ、時局ノ推移如何ニ依
リマシテハ、更ニ一段ノ國家統制ヲ必要ト
スル事態モ考慮セラレマスルガ故ニ、此ノ
意味ニ於キマシテモ本法ノ制定ハ緊急ヲ要
スルモノト認メテ居ルノデアリマス、本案
ノ内容ハ大體ニ於テ、軍需工業動員法及事
變關係ノ臨時諸法律ニ規定セラレマシタル
事項方其ノ根幹トナツテ居リマスルガ、規定
ノ形式方大綱ニ止リ、細部ヲ命令ニ委ネテ
居リマスルノハ、其ノ内容方事態ノ程度等
ニ依リマシテ變化致シマスル關係上、豫メ細
部ニ互ツテ之ヲ豫定スルコト方困難デア
ルガ爲メデアリマシテ、戰時事態ノ變化ニ即
應シ、迅速且適切ナル措置ヲ講ズルコト方
戰爭ノ本質上緊要デアアルノデアリマス、又
是等ノ措置ノ詳細ヲ豫メ外部ニ現シマスコトハ、
國防上ノ機密ヲ暴露シ、得策デナイ點モ考ヘ
ラレル次第デアリマス、又本案ニハ平時ニモ
適用セラレル規定ヲ含ンデ居リマスガ、是
等ノ事項ハ前以テ平時ノ準備ヲ必要トスル
モノデアリマスルコト同時ニ、戰時ニ際シ
マシテモ必要ナル事柄デアアルノデアリマス、
而シテ本案規定ノ各條項ハ相互ニ密接ナル
關聯ヲ有シ、一貫セル國家總動員ノ體系ヲ
形成シテ居ルノデアリマス、本案ノ内容ハ
人員、物資、施設、資金等、各般ノ事項ニ
互リ國民生活ニ大ナル關係ヲ有シテ居リマ
スルノデ、之方運用ニ付キマシテハ適切ヲ
期スルコト方極メテ肝要デアリマシテ、特
ニ審議會ニ關スル規定ヲ設ケマシタノモ、

此ノ趣旨ニ副ハムガ爲メデアリマス、要ス
ルニ國家總動員ハ國民ノ愛國心ヲ基礎ト
シ、舉國一致ノ協力ニ依ツテ初メテ其ノ效果
ヲ完ウシ得ルノデアリマス、政府ハ時局ニ
鑑ミマシテ、國家總動員ノ實施ニ法的根據
ヲ與フルノ必要ヲ認メマシテ、茲ニ本法ヲ
提出致シマシタル次第デアリマス、何卒十分
御審議ノ上、速カニ御協賛アラムコトヲ切
望致ス次第デアリマス

○議長(伯松松平賴壽君) 質疑ノ通告ガゴ
ザイマシタカラ御許シ致シマス、土方寧君
(土方寧君演壇ニ登ル)

○土方寧君 此ハ此ノ國家總動員法ニ付キ
マシテ、政府ニ二三質問ヲ致シタク存ジマ
ス、第一ハ本案ハ憲法ニ重大ナル關係ガア
リマスト云フコトト、モウ一ツハ本案ニハ數
多クノ體刑、罰金刑等ノ制裁ガ附イテ居
ル勅令方豫想セラレテ居リマス、是等ノ點カ
ラ見タダケデモ、政府方此ノ法案ヲ議會ニ
提出セラレル前ニ、豫メ憲法上ノ重大ナル
機關デアル樞密院ニ御諮詢ニナルヤウニ、
奏請スベキ筈デアッタ存ジマス、然ルニサ
ウデナカッタヤウデアアリマス、ソレハドウ云
フ譯デアアルカ、其ノ理由ヲ承リタイ、是ガ
一ツ、第二ハ御承知ノ通り我が國ノ憲法ニ
ハ外ノ國ニ見ルコトノ出來ナイ、我が國ノ
國體ニ基ク獨得ノ、天皇ノ大權ノ發動ト
云フコトガアリマス、本法ガ成立シマス
行ハレマシタナラバモウ大權ノ發動ヲ仰ガ
ナクテ宜イト云フ趣旨デハ萬々ナカラウト
思ヒマス、併シナガラドウ云フ場合以テス
ルカ、ドウ云フ場合ニ大權ノ發動ヲ仰ガカ、
其ノ分界ガハッキリ分リマセヌカラ、之ヲ成
ルベク、我々ニ分ルヤウニ御説明願ヒタ
イ、此ノ御説明ガ十分出來マセヌト云フト、
實際ニ於テハ本法ハ大權ノ發動ト云フモノ
ヲ要ナラシメルヤウナコトニナルト思ヒ
マスカラ十分ニ伺ヒタイ、第三ニハ政府ガ

獨斷デヤラスト云フヤウナ趣意ラシイ、審
議會ヲ設ケテシマスガ、ソレニ付キマシテ
ハ政府ハ本案ニ想像セラレテアル勅令案ヲ
必ズ其ノ審議會ノ議ニ付セラレルノデア
ルカ、ソレカラ政府ノ考ヘ次第デハ審議會ニ
付託スルコトモアルシ、ナイコトモアル、
其ノ時次第ト云フコトデアアルカ、ソレカラ
又審議會ニ付託セラレタル場合、若シ審議
會デ勅令案ヲ必要トスル、或ハソレニ付
テ修正スルコトカ云フヤウナ場合ガアリマ
ス時ハ、政府ハ審議會ノ決議ト云フモノヲ
採用セラレル積リカ、ソレトモソレハホン
ノ參考ニ聽イタノダカラ、何ヲ言ハウトモ
全會一致デ反對シヨウガ、修正シヨウガ、
矢張り政府ハ原案ガ宜イト思フカラ原案ヲ
公布スル積リデ居ルト云フ御考デアアルカ、
此ノ三ツノ點デアリマス、只今本案提出ノ
理由ハ總理大臣カラ誠ニ簡明ニ伺ツタ、私ハ
本案ノ趣意ハ少シモ反對デナイ、唯此ノ方
法ガ非立憲デアアルト思フカラ、其ノ意見
ハ他日述ベマスガ、色々ナ點デ明カニナツテ
居ルノデアリマス、決シテ立憲ノ手段デナ
イト思フノデアリマス、日本ノ憲法デハモッ
ト立派ニ出來ルト思フ、斯ウ云フコトハ……
ソレハ意見デアリマスカラ質問ノ時ハ申し
マセス、此ノ三ツノ點ケ成ルケ簡明ニ
御答辯願ヒタイ

(國務大臣鹽野季彦君演壇ニ登ル)

○國務大臣(鹽野季彦君) 土方サシノ御質
問ニ對シマシテ私ヨリ御答ヲ申上ゲマス、
第一點ハ本法ニハ多數ノ罰則ガ適用イテ居
ル、サウシテ本法カラ出ル命令ノ適用ニ付
テモ罰則ガ關係ガアルデハナイカ、從テ樞
密院ニ御諮詢ニ相成ルヤウニ奏請スルノガ
適當デハナイカト云フ御趣意ニ拜聽致シマ
シタガ、御承知ノヤウニ樞密院ノ御諮詢ヲ
奏請スル場合ハ、樞密院官制ニ示ス所デア
リマシテ、本法律ノ如キハ從來ノ解釋カラ御諮
詢ヲ奏請致サナイノデゴザイマス、先程ノ提

案ノ說明ノ中ニモアリマシタヤウニ、本法ハ
軍需工業動員法其ノ他昨年ノ臨時諸法、或
ハ古クハ徵發令等ヲ綜合包括致シタヤウナ
モノデアリマシテ、ソレ等ノ各法律ニ付キマシ
テモ、樞密院ノ御諮詢ヲ經テ居ラナイノデ
アリマス、命令ト罰則トノ關係ハ、本法ニ基
キマスル命令ハ本法ノ内容ニナルモノデゴザ
イマシテ、罰則其ノモノハ命令ノ中ニ規定
サレルノデハゴザイマセス、本法ソレ自體
ニ於テ罰則ヲ規定致シテ居ルノデアリマス
ルカラ、所謂罰則ヲ含ム命令ニ付テハ樞密
院ノ御諮詢ヲ奏請スルト云フ例ニハ全ク當
ラナイノデゴザイマス、第二點ハ大權ノ發
動ニ付テ本法トノ關係ハドウナルノカト云
フ御趣意ニ承リマシタガ、此ノ點ニ付キマ
シテハ憲法第二章、臣民ノ權利義務ノ規定
ニ依リマシテ、所謂立法事項ハ法律ヲ以テ
規定スベキ事柄デアリマスルガ、戰時或ハ國
家事變ノ際ニ於テハ、天皇ノ大權ハソレ等
ノ條規ニ妨ゲラレズ發動シ得ル旨ガ明カニ
規定サレテ居ルノデアリマス、天皇ノ大權
ノ發動ト本法律トノ關係ハ、何等大權ノ發動
ニ支障ヲ及スモノデハナイノデゴザイマス、
言換ヘマシレバ、本法ガ成立致シテ居リマ
シテモ、大權ノ發動ハ御自由ナコトデゴザ
イマス、所謂立法事項ハ平時ニ於キマシテ
モ戰時ニ於キマシテモ、之ヲ法律ニ依ルコ
トガ相當デアリマシテ、本法ガ戰時ノ事項
ニ付テ之ヲ規定致シマスルコトハ、何等差
支ナイノデゴザイマス、第三點ハ總動員審
議會ナルモノガ設ケラレルガ、ソレハ諸問
議場合ニ、其ノ答申ニ付テ政府ハ如何ニ
取扱フカト云フヤウナ御趣意ニ承リマシタ、
御承知ノヤウニ此ノ審議會ハ諮問機關デゴ
ザリマシテ、之ニ諮問致シマスル事項ハ、
本法ヲ實施致シマスル上ニ於テノ重要ナル
事項ヲ掛ケルノデゴザイマス、勅令案其ノモ
ノヲ諮問致スノデハゴザイマセス、諮問案
ノ内容トナルベキ重要ナル事項、若シクハ

第一讀會

官報號外 昭和十三年三月十八日 貴族院議事速記第二十五號 國家總動員法案

實施致上ニ於キマスル方針等ニ付テ諮問ヲ致シマス、固ヨリ審議會ノ審議致シタル結果ニ付テハ、政府ハ十分ニ之ヲ尊重シテ、施行ノ上ニ採用スルコトデアリマセウガ、法律ノ精神ト致シマシテハ、其ノ諮問機關ノ答申ニ對シテ束縛セラレルト云フコトハナイノデゴザイマス、併シナガラ事實ノ上ニ於キマシテハ、ソレヲ尊重スルコトガ當然ト考ヘテ居リマス

（土方寧君演壇ニ登ル）

○土方寧君 只今ノ司法大臣ノ御答辯ハ、政府代表ノ御答辯ト見テモ宜カラウト思ヒマスガ、誠ニ私ノ質問ニ對シテノ御答トシテハ不満足ニ思ヒマス、第一ノ點ノ罰則附ノ勅令ハ、豫メ樞密院ニ諮詢ニナルト云フ例ニ付キマシテ、本案ハ罰則附ノ勅令ヲ含メ居ル法律案デハナイト云フ、妙ナ御説明デアリマシタ、私ガ聞イタ所デハ甚ダ失敬ナ言分ダケレドモ法文ノ形式ダケノ、謂ハバ三百代言式ノ辯解トシカ思ハレマセス、併シソレハ意見ナシデス、今ハ申シマセス、第二ノ大權發動ニ付キマシテハマルデ私ノ問ニ答ヘテオイデニナリマセス、唯本案ガ法律ニナリマシテモ、大權ノ發動ハ妨ゲナイト云フダケノ話デス、私ノ伺フノハ折角斯ウ云フ法律ガ出來タナラバ、此ノ法律ニ依ッテ勅令ヲ作ル場合ト、サウデナシニ大權ノ發動ヲ仰グ場合ト、ドウ云フ場合ガアルカト云フコトヲ示シテ戴キタイ、サウデナイト實際ニ於テハ本法ガ大權發動ノ代リニナルヤウナコトニナリハセヌカト思フ、ソレヲ伺ヒタイト思フ、其ノ御答ガナイ、試験ナラバ落第點、問フタコトニ答ヘズ顧ミテ他ヲ言フ、第三點ハ頗ル曖昧ナシタ、審議會ノ意見ハ尊重スルト言ウテ、ソレヲ必ズ採用スルカシナイカソレヲ伺フタガ、何トモハツキリ分ラナイ、ソレハサウデセウ、審議會ヲ設ケテ審議ニ付シタガ、其ノ決議ヲ無視シテ用ヒナイ、唯聞イテ見タンダト

云フノデハ、人ヲ馬鹿ニスルヤウナモノデアリマス、ソレヲ尊重スルハ當リ前、ソレハ尊重ノ程度ダ、ソレヲ採用ナサルカ、ソレトモ何ト云フテモ政府デイケナイト思フタラソレヲ却ケ、原案通りヤルカ、ソレガハツキリシナイ、曖昧極マル御答、ソレヲドウカハツキリ伺ヒタイ

（國務大臣鹽野季彦君演壇ニ登ル）

○國務大臣（鹽野季彦君） 御答ヲ致シマス、第三點ノ審議會ノ答申ニ付キマシテハ、法律ノ豫期致シテ居リマス所ハ、其ノ答申ニ對シテハ政府ハ束縛ヲサレナイト云フコトニナリマスケレドモ、事實ノ上ニ於キマシテハ之ヲ採用スルコトト考ヘテ居リマス、第二點ノ大權ノ發動ト本法トノ關係ニ付キマシテハ、本法ハ戰時ニ於ケル事項ヲ今カラ想定シ得ル大綱ニ付テ之ヲ規定致シテ居ルデアリマス、而シテ之ヲ以テ國民ノ覺悟ト準備トヲ要求スルモノデアリマスルカラ、戰時ニ於ケル状態ノ變化ニ依リマシテ、尙足ラザルモノガ生ズルカモ知レヌ、又今定メタ事ガ差障リヲ生ズルコトガアルカモ知レヌ、ソレ等ノ場合ニ於キマシテ大權ガ發動シテ、ソレニ應ズル御處置ニ相成ルコトガ想像出來ルノデアリマス、併シナガラ此ノ法律ニ於テ規定致シマシタ所ガ、勿論戰時ニ於キマシテハ大權ノ發動ニ依ッテ御自由ニ、新クニ規定サレルコトハ勿論妨ゲナイノデアリマス、ソレヲ今茲ニ法律ヲ以テ規定シテ置キマスコトハ、國民ノ覺悟ヲ豫メ定メテ、其ノ努力其ノ物資ヲ如何ナル方向ニ差出スベキカト云フコトヲ明カニシテ置キタイト云フ所ニ存スルノデアリマス、決シテソレヲ以テ大權ノ發動ヲ妨ゲルト云フヤウナコトハ毫モナイノデアリマス

（子爵三室戸敬光君發言ノ許可ヲ求ム）

○議長（伯爵松平賴壽君） 三室戸子爵ハ何デスカ
○子爵三室戸敬光君 只今司法大臣ノ、國

務大臣トシテノ御説明ニ付テ、聊カ分リニタイ點ガアリマスカラ、此ノ席カラ、簡單デアリマスカラ伺ヒタイ
○議長（伯爵松平賴壽君） 土方サンガ濟ミマシテカラニ願ヒタイ、土方君
○土方寧君 再度御説明ヲ願フテモ同ジコトデ、腑ニ落ちルコトガ出來マセヌカラ、残念デアリマスガモウ質問ハ是デ打切りマス、意見ハ他日ニ譲リマス

○子爵三室戸敬光君 簡單デゴザイマスカラ

此處カラ……、只今第二回目ノ御答辯中ニ、大權ハ相當ニ御發動ガ出來ルノデアアルガト、相當ト云フコトヲ申サレテ居リマスガ、相當ト云フコトハ全部ト云フコトデナイノデアリマスカラ、其ノ反面ニハ不相當ニ御發動ガ出來ルト云フコトニモ解セラレレルデアリマス、其ノ點一ツ明確ニ伺ヒタイ、今一ツハ大權ハ御發動ハ御自由デアアル、私共ハ大權ハ御自由ト云フヤウナ言葉ヲ以テ論ゼラレルトハ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、大權ハ御自由デアアルト云フヤウナ思想ヲ以テ御答辯ガアツタコトハ甚ダ遺憾デアリマスカラ、其ノ點ニ付テ御辯明ヲハツキリ伺ヒタイノデアリマス
（國務大臣鹽野季彦君演壇ニ登ル）
○國務大臣（鹽野季彦君） 御答ヲ致シマスガ、大權ノ發動ニ付テ相當ト云フ言葉ヲ使ツタト云フコトニ付キマシテハ、法律ノ規定ヲ致シマシタ所ト、其ノ戰時ニ於ケル實際ノ事情トニ付テ法律ノ規定ガ存スルカラ、ソレデ足リルト云フ場合ト又足リナイト云フ場合トヲ申上ゲタガ爲ニ、相當ト云フヤウナ言葉ヲ使ヒマシタガ、決シテ大權ガ或範圍ニ法律ノ爲ニ制限ヲ受ケルト云フヤウナコトハ毫モナイノデアリマシテ、私ノ説明ノ仕方ガ不十分デ、言葉ノ足りナイ點ニ付キマシテハ之ヲ訂正ヲ致シマス、大權ノ發動ニ付テハ何等ノ障礙ナク圓滿無碍ニ發動サレルモノデゴザイマスコトハ勿論デ

アリマス、其ノ圓滿無碍ノ大權ノ發動ニ付キマシテ御自由ト云フ言葉ヲ使ヒマシタガ、其ノ點ニ付キマシテモ圓滿無碍ト云フ意味デアルト云フコトニ訂正ヲ致シマス
○子爵三室戸敬光君 大體了承致シマシタカラ是デ結構デアリマス
○土方寧君 チョット私ハ三室戸子爵ノ御質問ニ付テ簡單ナコトデスカ……
○議長（伯爵松平賴壽君） 宜シウゴザイマス

○土方寧君 斯ウ云フコトヲ伺ヒタイノデ

ス、大權渙發ト云ヒマス、立憲治下ニ於テハ、天皇ガ獨斷デナサレルコトハアマアカラウト思フ、國務大臣ガ天皇ノ御親政ヲ翼贊シ奉ル職責ヲ持ッテ居リマス、何レ陛下命ガアルト思ヒマス、或ハ内閣ガ進シテ大權渙發ノ奏請ヲスルノデアラウト思ヒマス、獨リデニ突然政府ガ知ラヌ中ニ渙發サレルト云フヤウナコトハナカラウト思フ、ソレガカラドウ云フ場合ニ奏請スルカ、天皇ガ親ラ御自分デ大權ヲ行ハレルトデナク、其ノ行使ヲ奏請スル内閣ガ時ノ内閣、ドウ云フ場合ニスルカ、此ノ法律ニ依ル勅令デヤルカ、其ノ分界ノ大體デモ宜イカラ説明シテ貰ヒタイ、ソレヲ説明シテ下サラナイカラ残念デ仕様ガナイ
（國務大臣鹽野季彦君演壇ニ登ル）
○國務大臣（鹽野季彦君） 戰時ノ事態ハ變轉常無キモノデゴザイマスルカラ、大體本法ニ於キマシテ大綱ヲ想定シテ置キマスケレドモ、愈、戰爭ノ状態ニナリマシテ事態ノ移リ變リノ上ニ於キマシテハ、其ノ必要ニ應ジテ奏請ヲ致スト云フコトニナルノデアリマス、ドウ云フ時、斯ウ云フ時ト云フコトヲ具體的ニ申上ゲルコトハ困難ニ存ジマス
○土方寧君 質問ハモウ是デ止シマス
○議長（伯爵松平賴壽君） 是ニテ質疑ノ通告ガ終リマシタ

○子爵戸澤正己君 只今上程セラレマシタ
國家總動員法案ハ頗ル重要ナ法案デアリマ
スルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ二十七名
トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルコトノ動
議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成
○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議
ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、特別委員ノ氏名ヲ則讀致サセマス
〔丸龜書記官朗讀〕

國家總動員法案特別委員

- 公爵島津 忠承君 公爵四條 隆愛君
- 侯爵井上 三郎君 伯爵二荒 芳徳君
- 男爵大井 成元君 子爵青木 信光君
- 子爵渡邊 千冬君 子爵曾我 祐邦君
- 子爵岡部 長景君 大島 健一君
- 水野鍊太郎君 大塚勝太郎君
- 宇佐美勝夫君 男爵紀 俊秀君
- 伊澤多喜男君 塚本 清治君
- 山川 端夫君 白根 竹介君
- 男爵渡邊 汀君 黑崎 定三君
- 男爵伊江 朝助君 竹越與三郎君
- 山岡萬之助君 松村 義一君
- 中村圓一郎君 金杉英五郎君
- 山隈 康君

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第五、昭和
十二年法律第八十四號中改正法律案、日程
第六、關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及
樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一
部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計
ニ繰入ルルコトニ關ル法律案、日程第七、
昭和十三年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル
爲公債追加發行ニ關スル法律案、政府提出、
衆議院送付、第一讀會ノ續、是等ノ三案ヲ
一括シテ議題トナスコトニ御異議ハゴザイ
マセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、委員長山縣公爵
〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參
照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ依テ〕
昭和十二年法律第八十四號中改正法
律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也
昭和十三年三月十六日
委員長 公爵山縣 有道
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺
太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ
一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特
別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也
昭和十三年三月十六日
委員長 公爵山縣 有道
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺
太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ
一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特
別會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也
昭和十三年三月十六日
委員長 公爵山縣 有道
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十三年度一般會計歳出ノ財源ニ充
ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也
昭和十三年三月十六日
委員長 公爵山縣 有道
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔公爵山縣有道君演壇ニ登ル〕
○公爵山縣有道君 只今議題トナリマシタ
昭和十二年法律第八十四號中改正法律案外
二法律案ノ特別委員會ニ於ケル審議ノ經過
竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、是等法律案
ノ内容ニ付キマシテハ、既ニ本議場ニ於テ
政府ノ説明ガゴザイマシタノデ、極メテ大
體ノコトヲ茲ニ申上ゲマス、第一ノ昭和十
二年法律第八十四號中改正法律案ハ、支那

事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲必要ナル
公債ノ發行限度ヲ二十億二千二百餘萬圓ヨ
リ六十四億七千六百餘萬圓ニ改メヨウトス
ルノデゴザイマス、尙法律案ノ附則ニハ、
支那事變ニ關スル臨時軍事費特別會計法ニ
一箇條ヲ追加致シマシテ、臨時軍事費出納上
必要アル場合ニ於テハ一時借入金ヲ爲シ、
又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得ルヤウニ
シテ置カウトスル改正ヲ含ンデ居リマス、
第二ノ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及
樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一
部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計
ニ繰入ルルコトニ關スル法律案ハ、支那事
變費ノ一部ニ充當致シマスル爲ニ、外地ノ
各特別會計ニ於ケルマシテモ、一般會計ニ於
ケルト略、同趣旨ノ下ニ、各種ノ租稅ヲ増徴
シ、新稅ヲ創設スルト共ニ煙草ノ値上ヲ致
シマシテ、其ノ收入ノ一部ニ相當スル金額
等ヲ豫算ノ定ムル所ニ依リマシテ、臨時軍
事費特別會計ニ繰入レヨウトスル法律案デ
ゴザイマス、最後ノ昭和十三年度一般會計
歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關ス
ル法律案ハ、所謂赤字公債ノ追加發行ニ關
スルモノデゴザイマシテ、一般會計歳出ノ
財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案
デゴザイマス、曩ニ今期議會ニ提出サレ、
既ニ議決済ト相成ツテ居ルノデアリマスル
ガ、昭和十三年度豫算追加第一號ニ計上セ
ラレマシタ經費ノ財源ノ一部ニ充ツル爲七
千三百餘萬圓ノ赤字公債ヲ追加發行スルコ
トニ關スルモノデゴザイマス、以上申述ベ
マシタ三ツノ法律案ニ關シマシテハ、三回
ニ互リ特別委員會ヲ開キマシタ、其ノ詳細ニ
テ重々慎重審議ヲ致シマシタ、其ノ詳細ニ
付キマシテハ速記録ヲ御覽願ヒタイト存ジ
マスガ、特ニ重要ナルモノヲ申上ゲマスレ
バ、是等法案ニ依リ昭和十三年度ニ於テ發
行ヲ豫定セラル、公債ノ額ハ巨額ニ上ルコ
トニナルノデアリマスガ、之ニ對シ如何ナ
ル對策ヲ政府ハ講ズル心算デアリカト云フ
質疑ニ對シ、大藏大臣ヨリ斯ク巨額ノ公
債ヲ發行スル場合ニ於テハ、一國經濟總
體ノ問題トシテ、政府總掛リテ國民ト協力
ヲ爲シ對策ノ遺憾ナキヲ期セネバナラス
ノデアルガ、就中其ノ基本工作トシテ
國際收支ノ適合ヲ圖リ、爲替相場ヲ
維持シテ通貨ノ價值ニ對スル國民ノ信用ヲ
保持シ、又物資自給ノ調節ヲ圖リ、急激ナ
ル物價騰貴ヲ防止スルコトガ必要ナノデア
リマシテ、之ガ爲ニハ輸出ノ振興、一部物
資ノ輸入制限、消費ノ節約、貯金ノ獎勵ナ
ドヲ圖ルコトガ大切デアリマス、今後トモ
是等ノ方面ニ十分ナル努力ヲスル考デア
ルガ、特ニ消費節約ト貯金獎勵トニ付キマ
シテハ、國民ノ理解ヲ求ムル爲ニ格段ノ努力
ヲ致スト云フ趣旨ノ答辯デゴザイマシタ、
尙巨額ノ公債發行ニ伴ヒ、生産力擴充ニ支
障ヲ生ズル虞ハナイカトノ質問ニ對シマシ
テ、公債消化ノ爲ニ時局ニ必要ナル生産力
擴充ニ要スル資金ノ調達ニ支障ヲ生ズルコ
トガアツテハナラナイノデ、日本銀行引受ニ
依リ公債發行ノ方法ヲ適當ニ運用シテ金融
ノ調節ヲ圖リ、公債消化ノ爲生産力擴充資
金ヲ壓迫スルヤウナ事態ヲ生ジナイヤウ努
ムル心算デアリカト云フ答辯デゴザイマシタ、
又公債ノ發行ハ今後トモ日本銀行引受ノ方
法ニノミ依ルモノデアリカト云フ質問ニ對
シ、市場ニ於ケル資金ノ情況ニ考ヘ、適當
ト認メル時ハ直接公債ノ公募ノ方法ヲ併用
スル考デアリカト云フ答辯ガゴザイマシタ、
次ニ陸海軍ノ豫算ハ龐大ナル額ニ上ルノデ
アルガ、其ノ使用ノ監督ニ付テハ如何ナル
措置ヲ講ジツ、アルカ、之ガ爲特別ナ機關
ヲ新設スルノ意圖ハナイカト云フ質問ニ對
シ、陸海軍當局ヨリ、龐大ナル豫算ヲ使用
スルニ當リマシテハ、戰時デアリカト云フ
テ決シテ放漫ナ經理ヲ致スコトノナイヤ
ウ十分ナ注意ヲ拂ツテ居リ、國內ノ諸官衙、

諸部隊ハ勿論、出征各部隊ニ於テモ、特ニ此ノ點ニ付キ留意スルヤウ、數次ニ互リ訓示ヲ致シテ居ルト云フコトデゴザイマス、之ガ爲特別ナル監督機關ヲ新設スル意圖ハナイガ、十分注意ヲ致スト云フ答辯デゴザイマシタ、尙今後物價ノ昂騰スルコトハ免レナイト考ヘルガ、今回議會ノ協賛ヲ經テ豫算ハ、將來之ガ爲不足ヲ來スヤウナコトハナイカト云フ質問ニ對シ、政府ハ物價問題ニ付テハ各種ノ方策ヲ講ズルト共ニ、國民ノ理解アル協力ヲ得テ、物價ノ急激ナル昂騰ヲ避ケルヤウ期シテ居ル次第デアル、軍事費豫算不足ヲ生ズルガ如キコトハナイ見込デアルト云フ答辯デゴザイマシタ、右ノ外龐大ナル軍事費ニ伴フ工業労働者ノ不足ニ處スル對策、國防獻品ノ爲ニスル密附金、恤兵金ノ取扱ニ關スル會計法上ノ問題、産業統制ニ伴フ利弊ノ問題、物價騰貴ノ國民生活ニ及ス影響ノ問題、臨時資金調整法施行ノ情況、臨時軍事費特別會計ニ於テ發行スル流通證券ノ發行限度、外地ニ於ケル増稅及新稅創設ノ方針、臨時資金調整法改正ノ要否ナドニ付キ質疑ヲ重ネマシタ、討論ニ入り是等ノ法律案ハ何レモ現下ノ時局竝ニ財政ノ現狀ナドニ鑑ミマシテ、適當ナルモノト認メマシテ、全會一致ヲ以テ可決致シマシタ次第デゴザイマス、以上御報告ヲ申上ゲマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナケレバ三案ノ採決ヲ致シマス、三案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 三案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、三案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 三案ノ第三讀會ヲ開キマス、三案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 次會ノ議事日程ハ決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十一時十九分散會

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ